

デーリー東北
2017年（平成29年）6月21日（水曜日）（19）

小中学生向け環境教育プログラム

八工大などが国連に提案



国連海洋会議への教育プログラムの提案を発表する橋詰豊講師（左）ら＝20日、八戸工業大

海辺のごみを調査

八戸工業大は20日、海辺のごみに関する調査を中心とした小中学生向けの環境教育プログラムを、今月上旬に米国で開かれた国連海洋会議に提案したことを発表した。同大や海洋研究開発機構（JAMSTEC）などの研究グループが本年度から、プログラムの確立に向けて本格的に研究を行

っており、将来的に海洋汚染の防止などにも期待が懸かる。調査の対象は、砂浜などに落ちているプラスチック製のゴミで、海洋汚染の原因の一つとされる「マイクロプラスチック」。同大などのグループは現在、ゴミが多く落ちている場所や量を調べる方法のほか、イン

ターネット上で調査結果を公表する手段を検討している。

同大によると、調査実施者を小中学生に設定したのは、若い世代に海への興味を持ってもらうため。来年度以降、八戸市内の小中学生に協力を求め、実際に浜辺などを調べてもらう予定だという。

プログラムの確立に取り組んでいる橋詰豊講師は「さまざまな機関と連携し、地域に貢献できる研究にしたい」と述べた。

（福田駿）